

平成27年度「確かな学力」実践研究事業

図画工作科 公開授業・授業研究会

授業者 桐生市立梅田南小学校 前島 隆宏 教諭

平成27年10月23日（金）

第5学年 「かいたり、消したり、こすったり」



表したいことを見つけて絵に表す活動において、題材の導入に、児童が初めて扱う材料（コンテ）に主体的に関わりながら特徴を見いだす、試しの活動を取り入れた授業を公開しました。



県内各地から先生方に参加していただき、授業研究会では、試しの活動の充実のさせ方等について、熱心な議論が交わされました。

【題材】 5年『かいたり、消したり、こすったり』（全5時間予定）

【本時のねらい】（本時 1 / 5）

コンテで描いたりこすったり、消しゴムで消したりする試しの活動を通して、コンテと消しゴムの特徴に気付き、その特徴を生かして様々な形を描くことに意欲的に取り組む。

【提案する手立て】

- ・（手立て①）コンテや消しゴムに触れながら、特徴を生かした多様な表現方法に気付くことができる試しの活動の設定

【実践の手引き p. 84・85・88】

- ・（手立て②）試しの活動での気付きや感じたことを、上部を長方形に切り抜いたカード（「ひらめきカード」）に表す活動の設定 【実践の手引き p. 84・85・88】



□

・・・提案する手立てに関すること

□

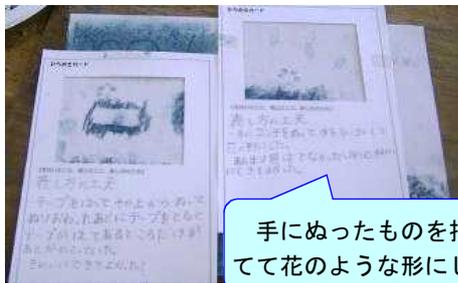
・・・提案する手立て以外の工夫や支援など

<p>学習活動</p> <p>・予想される児童の反応</p>	<p>時間</p>	<p>指導上の留意点及び支援・評価</p> <p>(◎努力を要する児童生徒への支援、◇評価、 ~~~~部は〔共通事項〕を生かした指導・支援)</p>
<p>1 本時のめあてをつかみ、追求の見通しをもつ。</p> <p>コンテで描いたものを指でこすると、薄く伸びて、きれいになった。</p>  <p>鉛筆とは違う表し方ができそうだ。</p> <p>消しゴムを使うと白い線が出てくるぞ。消し方を工夫したらもっと面白い形が生まれてきそうだ。</p> <p>表した方を組み合わせると、いろいろな線や形が描けそうだ。</p>  <p>前に針金を使った題材で見つけた表現を集めた図鑑をつくったのが参考になったね。今回も「コンテ・消しゴム図鑑」をみんなでつくろう。</p> 	<p>5分</p>	<p>指導上の留意点及び支援・評価</p> <p>(◎努力を要する児童生徒への支援、◇評価、 ~~~~部は〔共通事項〕を生かした指導・支援)</p> <p>手立て① 試しの活動の設定</p> <p>【実践の手引き p.84・85・88】</p> <p>○児童が見通しをもって活動できるように、本題材で使用するコンテと消しゴムを用いた基本的な表現方法について、以下の点を中心に確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテで線や点を描く ・塗り込む ・こする ・消しゴムで消して線や形を描く <p>○コンテや消しゴムの基本的な扱い方を理解できるように、補足を加えながら表し方を演示する。</p> <p>消しゴムは、消すことによって何かを生み出すという使い方もできるんだね。他にどんな表し方ができるかな。</p> <p>○児童の目的意識を明確にするため、コンテや消しゴムを使ってできる表現を集めて一覧にした「コンテ・消しゴム図鑑」を作成することを告げる。その上で、本時は様々な表現方法を試し、気付いたことや感じたこと、工夫点などをカードに表すことを確認し、めあてを提示する。</p> <p>今回は、窓付きのカードで自分の一押しの部分を見つけて、授業の後半で紹介し合っ共有しましょう。</p>
<p>[めあて] どのような表し方ができるかを見付けながら、コンテでかいたり、こすったり、消しゴムで消したりしてみよう。</p>		
<p>2 画用紙にコンテで描いたり、消しゴムで消したりして思いのままに表現を試し、上部を長方形に切り抜いたひらめきカード」を作成する。</p>  <p>指よりティッシュでこするほうが柔らかい感じの表現になったよ。</p> <p>消しゴムで消したら、雨のようになったよ。</p> <p>線の向きや長さを変えたり、短い線や点で描いたりしても面白いよ。</p> 	<p>30分</p>	<p>○表現方法のよさや工夫点などに気付けるよう、机間指導しながら児童一人一人の取組について具体的に賞賛していく。</p> <p>これはとてもいいアイデアだね。どうやったの？なるほど、力の入れ具合でこんなに違うんだね。</p> <p>◇コンテで描いたりこすったり、消しゴムで消したりして、描画材の特徴を生かした様々な形を描いている。(作品・観察)</p> <p>【造形への関心・意欲・態度】</p> 

ここじゃ分からないかな。
この部分が
いいかな。



薄くぬったり、
濃くぬったりして
こさを工夫した。



手にぬったものを押し当
てて花のような形にした。

3 試した表現について振り返り、友達
と紹介し合う。

10
分



花火みたいにしてみました。ちょんちょん描い
て手でこするととてもきれいになりました。

気付いたことは、
ここに何かがあって
周りのものをどけな
がら進んでいくよう
な感じになった。
表し方の工夫は、
描いたうえで一方
向に消すようにしたこ
とです。



<表れてほしい児童の意識>

- ・ Aさんのコンテの使い方は、次回の
製作に生かせようだ。
- ・ 自分が試した描き方とB君の消し方
を組み合わせたら、〇〇のような形
が描けそうだ。

◎なかなか取りかかれない児童が試しの活動に主
体的に取り組めるよう、以下に示したような声
掛けを行う。

- ・「コンテでいろんな線を描いてみよう。」
- ・「コンテで思い切って画用紙を塗ってみよう。」
- ・「消しゴムを工夫して使って、いろいろな消し
跡を楽しもう。」

手立て② 「ひらめきカード」に表す活動

【実践の手引き p.84・85・88】

○気付いたことや感じたこと、工夫した表現方法
などを意識できるように、次の順に紹介したい
部分を「ひらめきカード」に表すよう指示する。

- 1 画用紙にビニールをかぶせる(画用紙の保護)
- 2 紹介したい部分をカードで探す(表したことを残したまま、よさや工夫点などを意識化するための教材)
- 3 気付いたことや感じたこと、工夫したことを書き込む(言語による意識化)

○材料や用具の面白さや表現の多様性について実感で
きるよう、本時の活動の振り返りをする。

○自分で試した表し方のよさを友達に伝えたり、友達
の作品を見て表現の多様性に気付いたりできるよう、
グループ(4、5人)で作品を紹介し合うよう指示
する。その際、どのようなところを意識して発表し
たり、友達の発表を聞いたりすればよいかを明確に
するため、カードに記入する際に示した「気付いた
ことや感じたこと、表し方の工夫」を再度確認する。

○コンテや消しゴムを工夫して扱うと様々な表現がで
きることに気付けるよう、特徴的な表現方法に取り
組んだ児童を意図的に指名し、全体に紹介するよう
指示する。

○次時以降は、写真に
撮ってトリミングし
た「ひらめきカード」
を貼り合わせて「コン
テ・消しゴム図鑑」に
まとめること、それを
参考にして表せそう
なことを考え、絵に表す
ことを提案する。



次回はみんなのものを貼り
付けて図鑑を完成させよう。
そして、完成させた中からど
んな絵が描けそうか考えて、
大きい紙に描いていこう。

<板書計画>

10/23 かいたり、消したり、こすったり

めあて

どのような表し方ができるかを見付けながら、コンテで
かいたり、こすったり、消しゴムで消したりしてみよう。

コンテと消しゴムでこんなことができそう

- | | | | |
|------|------------|---|---|
| ○かく | コンテ | ⇒ |  |
| ○ぬる | コンテ | ⇒ |  |
| ○こする | 指
ティッシュ | ⇒ |  |
| ○消す | 消しゴム | ⇒ |  |
- ※こする、消すは演示

参考作品

ひらめきカード



記入すること

- ・気付いたことや感じたこと
- ・表し方の工夫

コンテ・消しゴム図鑑



点で書いたの消し
して、中にさか
みかいた。
花火の光がよがした。

<実際の板書>



授業検討会

【授業研究会での意見】

<よかった点>

- ・前題材で行った試しの活動が本時に活かされており、児童が見通しをもって材料の特徴を追求する活動に取り組むことができていた。
- ・導入の指示や板書が的確であり、教師の受容的な雰囲気のもと、児童は感性を働かせながら試行錯誤し、多様な表現を見いだすことができていた。
- ・「ひらめきカード」で言語化をさせていくことで、試しの活動での体験を通して得た気づきを再確認し、自分のものとして今後の表現につなげることができていた。

<改善点>

- ・初めて扱う材料との出会いから生じる発想を生かし、試しの活動での表現をそのまま作品づくりにつなげていくことで、イメージと形を直結させた作品づくりを行うこともできたのではないか。
- ・児童にどのような表現をさせたいのか、最終的に到達させたい表現をより明確にさせた上で、試しの活動の内容を設定していく必要があったのではないか。
- ・試しの活動での気づきを広げていくために、記述する内容を絞ったり、大きな用紙に複数人で試させたり、自由に見合う時間を設けたりしていくことも考えられたのではないか。

【参加者の声】

- ・試しの活動の時間が十分に確保されていて、児童が伸び伸びと活動していた。予想していた以上に多様な表現が表れていたのも参考になった。
- ・無意識に様々なことを試していた材料体験が「ひらめきカード」を使うことで、客観的に見ることに繋がったと感じた。
- ・自由に伸び伸びと活動した後に、「ひらめきカード」で意識化し、的確な言葉に置き換えたことで表現のイメージが膨らんだと感じた。
- ・「ひらめきカード」で見つけた一人一人の材料の特徴への気づきを、図鑑として掲示することで、アイデアの種が増えて、幅広い表現が生まれてくるようになると思った。
- ・カードにどのようなことを書かせていくのか、用いる言葉やその内容については、発達段階を踏まえて検討していく必要があると感じた。
- ・初めて扱う材料を生かした題材では、導入の段階で試しの活動を取り入れることで、児童の意欲を効果的に高めるとともに、発想・構想の能力を高めることができ、その後の表現活動に生かされると感じた。



【授業者の振り返り】

図画工作科の授業づくりについて、深く協議をすることができ、大変勉強になった。「はばたく群馬の指導プラン」には、群馬県の図画工作科の課題として「材料の特徴を生かして発想すること」が挙げられており、本学級の児童の課題とも合致している。材料や用具の特徴を基に発想を広げられるようにするには、材料や用具に触れる中で自分なりに表現方法を試すとともに、直感的・感覚的に表現したことを客観的に捉え直す時間を確保することが重要であると考えて、本時の手立てを提案させていただいた。子どもたちは、前題材での経験を生かして、指導者が想定していた以上に豊かな発想を発揮し、自らの力で多種多様な表現を生み出すことができていたと感じた。

今日の研究会で出していただいた様々な意見をよくかみ砕いて、今後の指導に生かし、目の前の子どもたちや地域に還元していきたい。